

研修報告書 No.7

所 属： 大阪医科薬科大学

研修先： 田野病院

2021年7月5日から8月8日まで田野町にある白井会田野病院で研修させていただいたので報告します。私は鳥取県出身で大山町という田舎の町に住んでいました。大学から大阪に出てきたのですが、今回地域研修の候補地に高知県がありおそらく地元と似たような地域医療の現状が見られるのではと思い研修を希望させていただきました。

高知県には4つの医療圏があるのですが今回私は安芸医療圏で研修をしてきました。安芸医療圏は安芸市から東洋町までかなりの広さがあるにもかかわらず、私が研修した田野病院より東側に大きな病院がなく、救急車が時間をかけて室戸の先からやってきていました。統計的には高知県の人口当たりの病床数は他県より多いようですが、その偏在の著しさを見せつけられました。また救急車が通る道も海岸沿いにある片側1車線の国道だけという区間もあり、台風などで高波があるとすぐ通行止めになるそうです。そんな時は、予定していた訪問のリハビリや看護など医療の提供も当然中止になるそうです。室戸市など東の端の町も高齢化が非常に進んでおり、医療、介護のニーズが高い状態なのに近くに大きな病院がない現状は非常に危機的だと思いました。医療従事者の人手不足も深刻で、病院以外にも老健施設などで看護師不足により新たな入所者の受け入れを見送っていたり、見取りができなくなったりしていました。高知県の取り組みにより県立の中核病院では医師数が増えており、そこから地域の診療所などに派遣など行っているようですが、地域の拠点病院となっている民間の病院にも人材や経営に対する補助はもっと必要だと思いました。廃業してしまった室戸病院の建物を見たときそう感じました。

田野病院の研修では、今まで大学病院で経験してきた急性期医療に加えて、予防期、回復期、維持期、すべての段階における医療を見学できました。外来では定期的検診に訪れる患者など大学では見たことがなく新鮮でした。病棟でも急性期だけではなく回復期の病棟もあり、日々のリハビリを頑張る患者をフォローする経験も出来ました。今回特に印象に残ったのが医師以外の職種の方について施設や患者の自宅に訪問する研修です。看護師さんに同行し自宅でのバイタル測定や身体のケアを手伝ったり、ヘルパーさんと一緒に患者さんの自宅で料理をしたり、理学療法士さんに同行し訪問リハビリの見学をしたりしました。病院の中だけでなく患者が生活する地域の中で医療が提供されている様子が見られ、まさに地域医療を学べたかなと思います。

今回の地域研修を通し、医療は病院だけで完結するのではなく、患者の健康を守るためには地域に戻った後も絶え間ない介入により、見守り続けることによって維持されていると分かりました。またそれを可能にしている日本の医療制度はとても素晴らしいと思いました。

た。お金がない人にも必要な医療やケアが提供されるのは当たり前のように思っていたが、実際にその手厚さを目の当たりすると感心します。ただ高知県の高齢化率の高さは未来の日本を反映していると思うので、高知のへき地医療問題は日本の将来の課題だと思います。医療の介入が多く必要な高齢者の割合がもっと多くなった時、この医療制度を維持し続けることができるのか不安を覚えました。この問題に関しては今後とも考え続けていきたいと思います。

今回コロナ流行の時勢の中、地域研修を受け入れて下さった関係者の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。